

志摩國  
鳥羽港

一同國大湊川湊、口之廣サ半町餘、深サ潮満ニ六七尺、大船六七拾艘掛ル、沖之懸リ場吉、北請、間の内迄けニ不構、津より戌亥之風眞艦、

〔伊勢路の玄るべ〕鳥羽 鳥羽侯の居城あり、加茂より一り、

山に傍海に臨て、町屋千軒餘、東南海第一の湊にて、繁昌之所也、山田へ行程三り、○下略

〔諸國湊附〕志摩

一鳥羽津湊、前ニ島有三方々入ル、深サ五丈計、東請、沖之掛り場悪し、大船何程も懸ル能湊也、○中略

伊豆の下田々鳥羽迄、海上五十五里、寅の風眞艦、參州之伊呂子崎々鳥羽 江 十三里、

遠江國  
白菅湊

〔類聚名物考 地理二十八〕白菅湊 玄らすぐのみなど 遠江國

東海道の遠江國に白菅の湊と、俗に云ひ傳ふる所なり、或人云ふ、鹽見坂を下りて、本白須賀といふ里あり、此を白菅の湊といへど、いかにぞやと思ふ、是も後の世の事好む者のわざにや、一里程入ゆきて、荒居の方、右の濱邊にきらか松山といふ里あり、そこの道の間に、南の大海よりさし入濱有り、昔は此海もと白須賀の里の東にて、横に入て有りしが、寶永の比、大地震に山をゆり崩せし時埋れて、今は岡と成たるとぞ、里の翁のいへり、白須賀の里のうつろひしも、その年に有るべし、思ひ合せ見れば、白須賀の湊といふ名も有りぬべしといへり、今案に、白須賀玄らすぐ、その詞の近ければ、訛てかくも云ひぬべし、白須賀はいにしへの玄かすがの渡りを、よこなまれるなり、さらば異所なるべきか、白菅浦といへるは、この白菅湊同所にや、

相模國  
浦賀港

〔新編相模國風土記稿 百十三〕東浦賀比賀之字、眞賀 江戸ヨリ行程十七里○中略 湊。東西浦賀の中間ニ斗入セリ、南ヲ首トシ、北ヲ尾トス、長二十町餘、幅二町餘、深

十二里、三崎へ四里アリ、房總ノ出崎ト海ヲ隔テ相對ス、其間四里餘、道與准后ノ記ニ據ニ、鎌倉右大將家ノ頃ヨリ開ケシ湊ナリト見ユ、回國雜記曰、浦河ノ湊トイヘル所ニ至ル、コ、ハ昔賴朝卿鎌倉ニスマセ給フ時、金澤、榎戸、浦賀トテ、三ツノ湊ナリ